

『経済史研究』執筆要項

一 構成

1 構成順は次の通りとする。

論題・副題、著者名、本文、付記、註、文献リスト

2 論題に副題を入れる場合はダーシ(―)で最初と最後をくくる。

(例) ヨーロッパ連合時代における「国民国家」の見直し

―「ブリテン史」の隆盛とイギリス国家の行く末―

3 章の通し番号は漢数字で記す。節の通し番号は全角丸括弧でくくった全角算用数字で記す。章・節ともに題をつける。ただし「はじめに」「おわりに」、またはそれに相当する章は通し番号をつけない。

(例)

はじめに

一 「ブリテン史」の歴史

(1) J・G・A・ポークによる「ブリテン史」の提唱

二 文章表現、用語、数字(引用文、固有名詞をのぞく)

1 縦書き、現代仮名遣いを用いる。

2 本文中の数字は漢数字を用いる。ただし、十、百、千は用いないことを推奨する。年月日には十を用いない。万以上は単位語(万、億、兆など)を用いる。概数の場合は、十数人、数十年などと記す。

(例) 二三〇頁 二五三六名 三万二〇〇〇石

3 分数は「X分のY」などと記す。

(例) 三分の一 二〇分の七

4 小数点は中黒を用いる。

(例) 四・八秒 二五・三倍

5 度量衡や貨幣の単位・記号の表記は記号またはカタカナどちらでも可とする。ただし、同一論文内で統一する。

(例) 一八% 五一五kg 二九ヘクタール 七八ドル

6 数の範囲を表現する場合は波ダッシュ(―)を用いる。

(例) 三―六 一六五―一六七頁

7 年の表記は西暦、年号のいずれでも良い。ただし、年号を用いる場合は西暦を併記する。同じ章や節内で同じ年号が繰り返される場合は、初出のみ西暦を併記するなど、省略を可とする。

(例) 元禄八(一六九五)年 二月二五日 洪武九(一三七六)年

8 欧文表記は、三文字程度は縦に組み、他は横向きに配置することを推奨する。

(例) OSAKA UNIVERSITY OF ECONOMICS (以下、OUE)

三 図(写真含む)・表

1 白黒での印刷を前提として作成する。なるべく横書きに作り、通し番号(算用数字)と題を

つける。

(例) 図1 大阪府における備前焼出土地の分布

表1 大阪府における備前焼出土例の時期別内訳数

2 図、表の下部には出所(出典、所蔵、作成者など)を記す。

3 他の著作物の図表を利用・転載する場合は必要に応じて著者自身が自らの責任において、原作者または著作権保持者から使用許可(オンラインでの公開を含む)を得る。

四 引用

1 引用は、一部分を引用する場合は一重鉤括弧(「」)でくくり、ブロック引用は、本文中に二字下げで記す。

2 引用文中の引用者による注記は、初出時に、亀甲括弧(「」)でくくって記す。

(例) (〇〇―引用者)〔傍点は引用者〕〔中略〕

五 註および文献リスト

1 補足・解説内容と引用した文献をすべて註で示す場合は、(1)から通し番号を付し、本文末尾に一括して掲げる。文献リスト方式で示す場合は、註の後に「引用文献」または「参考文献」の項目を立てる(一1、五2参照)。

※なお本誌が記事公開を行っているJ-STAGEにおいては、「引用文献」欄への登録により引用・被引用文献へのリンクが表示される。

2 文献リストにあげた文献を本文中に示す場合は、著者の姓、発行年、引用対象の頁を括弧書きで記す。文献リストは研究文献と史資料に分け、言語ごとにまとめて列挙する。日本語文献は姓名の五十音順、英語文献はラストネームのアルファベット順、中国語文献は姓名の拼音によるアルファベット順とするなど、それぞれの言語による慣習に従う。同一著者の文献は刊行年順に記す。

3 註および文献リストにおける文献表記例(なお論文内で統一されていれば著者のスタイルを尊重する)

〈図書〉著者名『書名』出版社名、刊行年

(例) 本多三郎『ブリテン資本主義下のアイルランド農業』思文閣出版、二〇二五年

〈書籍所収論文〉著者名「論題」『雑誌名』(紀要など、誌名だけでは発行元がわかりにくい場合は刊行組織名)巻号、刊行年(刊行年内に複数回刊行する雑誌の場合は月も)、始頁〜終頁

(例) 徳永光俊「二〇世紀後半の農法史研究と日本農業」徳永光俊編『20世紀の経済と文化』思文閣出版、二〇〇〇年、八九〜一一〇頁

*数字の表記は原典どおりが望ましい。

〈雑誌論文〉著者名「論題」『雑誌名』(紀要など、誌名だけでは発行元がわかりにくい場合は刊行組織名)巻号、刊行年(刊行年内に複数回刊行する雑誌の場合は月も)、始頁〜終頁。巻号表記は原典での表記通りが望ましいが、省略表記する場合は同一論文内で統一する。

(例) 高木久史「初期日本経済史研究所をめぐるメタヒストリー」『経済史研究』(大阪経済大学日本経済史研究所)第二八号、二〇二五年、一〇九〜一二四頁

〈外国語文献〉英語の場合は、書名、雑誌名は冠詞、前置詞、関係詞と接続詞を除く単語の一文字目を大文字とするイタリック書体とし、論題は二重引用符(“”)でくくる。英語以外の外国

語は各言語の慣習に応じて必要な書誌情報を記す。

(例) Lewis, William Arthur. *The Theory of Economic Growth*. London: George Allen & Unwin, 1955.

Solar, Peter M. "The Agricultural Trade Statistics in the Irish Railway Commissioners' Report.", *Irish Economic and Social History*, Vol. 6, 1979, pp. 24-40.

「타자로서의 지방과 중앙의 해게모니」韓國史研究會編『韓國地方史研究의 現況과 課題』景仁文化社、二〇〇〇年

〈史料〉史料群名、史料番号、所蔵機関など

(例) 杉田定一関係文書「地租改正係書類」整理番号一〇一七、大阪経済大学図書館

外交部档案「日本所提条件懇嚴重交渉」〇三—三三—〇八六—〇一—〇一四、中央研究院近代史研究所档案館、一九一五年二月二二日

The 1641 Depositions, Trinity College Dublin, MSS 809-841

〈雑誌・新聞記事〉著者名（無記名の場合は省略）「記事タイトル」『雑誌・新聞名』巻号、刊行年（月日）、頁

(例) 「特集 日本経済史研究所（座談会）七〇年の歴史と二二世紀の役割」『オール関西』第一六卷第九号、一九九九年十二月、四二〜五三頁

「銀座街の道路大改造」『時事新報』一九一九年一年一二日付

〈web公開文献〉著者名「タイトル」公開機関名、公開年（月日）、URL（閲覧、取得、接続、利用日など）

(例) 厚生労働省賃金福祉統計室「賃金構造基本統計調査」厚生労働省、二〇二四年二月、<https://www.mhlw.go.jp/koukei/list/chinginkouzou.html> (二〇二五年六月一〇日取得)

京都帝国大学『京都帝国大学一覽自昭和一二年至昭和一三年度』（京都帝国大学、一九三八）一四五頁（国立国会図書館デジタルコレクション）<https://dl.ndl.go.jp/pid/1451825> (二〇二四年八月二二日閲覧)

1641 Depositions (<https://1641.tcd.ie/>) accessed 30 Nov. 2024.

六 その他

1 査読はダブルブラインド方式で行うため、本文内に投稿者が特定できるような表現（「投稿者はこれまで〇〇について論じてきた」や、「拙稿〇〇」などの表現は用いない。なお査読者が編集委員の場合は投稿者名を査読者へ開示する。

2 助成に対する謝辞は、付記（一1参照）で示す。また、助成元が示す例に沿って記す。

3 校正は初校と再校の二回行う。論旨にかかわる修正および再校での追加修正は原則認めない。執筆要項に沿っていないものは受理しない場合がある。

二〇二五年 七月二六日 第四五回編集委員会で決定 第三〇号より適用